

17 誰か教えてください ～僕はどうしたらいいですか～

1 主題 集団づくり

2 主題・教材について

私たちは、日常的に様々な集団に属し、その中で多くの人と関わり合って生きている。その関わり合いの中では、様々な思いが交錯していて、時として対立が生じることもある。そのような対立は、人が生きていく上で避けることのできないものであり、そうした場面を乗り越えることで、人は成長することができる。集団づくりは、そのような現実的な営みであり、その中においてこそ、真の共に生き抜く力が培われていく。対立に直接関わる者をはじめ、その集団に属する全ての者が問題を直視し、対話を通じて互いが納得のできる解決を図る取組を積み重ねていくことで、そのような力をより確かなものとすることができるのである。

しかしながら、現実には、様々な理由から丁寧な取組ができないまま、対立（トラブル）を回避することや形式的な解決を図ることが優先され、肝心の共生の力を培うことができずにいることも少なくない。コミュニケーション力の低下が言われて久しい現代においては、その傾向が顕著である。この教材では、敢えてそのような場面をシミュレーションすることを通して、対話による解決の重要性を知るとともに、そのための技能を身に付けさせたい。

コミュニケーション力とは、自分の考えや気持ちを適切かつ豊かに表現するとともに、他者の気持ちをくみ取り、的確に理解する力でもある。これらは、人と人をつなぎ、よりよい人間関係を築く上で不可欠なものである。また、「自分の考えや気持ちを、相手に理解してほしいという思いで話す」態度や「相手の言うことを理解しようとして聴く」態度を身に付けることは、技能を発揮する前提として重要なことである。

学習を通じて、話し手の考えや思いをしっかりと聴くための技能、自分の不満な思いをきちんと伝えるための技能等を身に付けさせたい。さらに、一人の思いを集団の課題として位置づけることの意義について考えさせたい。

- ### 3 ねらい
- 一人の思いを集団の課題として捉えようとする態度を身に付ける。
 - 自分の不満な思いを「伝える」技能を身に付ける。
 - 話し手の考えや思いを「聴く」技能を身に付ける。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	これまでの経験やクラスの様子をふり返ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> • 本文（P.68～P.69）を読み、感想を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • これまでに似たようなことはなかったかを考えさせる。 	
展開	「僕」の気持ちに迫ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> • グループに分かれ、「ある女子からの心ない一言」（P.69）を1人ずつ試みる。 • どのように言われると、「今までがんばってきた自分を否定された気」がするのかを考え、意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本文を読んで感じたとおりに表現するように指示する。 	
展開	「悩み事相談」をしよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> • グループの中で「相談者（僕）」「ラジオ番組の相談員」「視聴者」に分かれ、「悩み事相談（ロールプレイ）」と、そのふり返りを行う。 ▶ 「相談者」は、本文の内容を踏まえて 	<ul style="list-style-type: none"> • 相談者の台詞は定めていないので、各自がその役になりきり、自分で考えて（アドリブで）演じることを伝える。 • 1回3分程度とし、各回ごとにふり 	

展 開	<p>相談を持ちかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶「相談員」は、親身に相談に対応する。 ▶「視聴者」は、やりとりを聴いて後で感想を述べる。 	<p>返りを2分程度行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 配役を変えて2回以上行う。
	<p>悩みの解決のために、周囲の者ができることを考えよう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> • 全員が「僕の友だち」という設定で、「僕」の悩みの解決のために自分たちができることをグループで話し合う。 • グループで話し合ったことを全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「ラジオ番組の相談員」（このクラスに所属していないので、他人事的な捉えで済ませられる）と「僕の友だち」（放っておくわけにいかない）との違いを意識させる。
	<p>「1人はみんなのために、みんなは1人のために」について考えよう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> • 1人の悩みについてみんなで話し合ったことの感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 他者の思いを受けて問題の解決を図る取組の在り方や集団の有り様について考えさせる。
ま と め	<p>クラスをふり返ろう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> • 自身のクラスについてふり返り、感想文を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分自身やクラスメイトの「しんどい思い」を書いてもらい伝える。

※ このような思いが書けるためには、「人権が尊重される教育として」の環境が整っていることが求められる。まずは、教職員が生徒を権利の主体者として尊重し、信頼関係を築いておかなければならない。